
 記 事

例会記録

日本医史学会 6月例会

開催中止

 第43回 日本医史学会神奈川地方会 秋季例会・
 日本医史学会9月例会 合同例会

平成26年9月20日(土)

鶴見大学会館地階サブホール

特別講演

歴史から学ぶ看護の力

日本看護史学会長 川嶋みどり

一般講演

1. 献体解剖第一号の執刀医を特定した
『三田村多仲文書』とは? 柏木政伸
2. 医療訴訟の歴史 萩庭一元・福嶋弘栄
3. 緑膿菌の病原的意義の変遷 滝上 正

日本医史学会 10月例会

平成26年10月25日(土)

順天堂大学医学部センチュリータワー16階北フロア

1. 小石川養生所初期の医療活動 山口静子
2. 明治6-14年の東京府病院について
— 東京都公文書館資料より — 稲松孝思

例会抄録

ゼンネルトと臨床医学の歴史

坂井 建雄

ゼンネルト Sennert, Daniel (1572-1637) は、17世紀初頭にドイツのヴィッテンベルク大学の医学部教授を務めた。ゼンネルトは医学史上でよく取り上げられる人物ではなく、信頼できる伝記と書誌がなかった。最近の論文(坂井, 澤井, 2013)で、同時代の文書にまで遡って資料を収集するとともに、世界の有力な図書館の目録を調査して書誌を作成し、ゼンネルトの伝記と業績を再構成した。ゼンネルトの生涯は、教授就任までの形成期に続いて、学術活動が3期に分かれ、第1期は『医学教程5書』(1611)出版まで、第2期は1618-19年の3つの重要な著作『自然科学要略』(1618)、『化学についてアリストテレスとガレノスの不-

致』(1619)、『熱病について4書』(1619)まで、第3期は『医学実地』全6書(1628-1635)の出版を含む死去(1637)までである。ゼンネルトの著作は、総論的な医学理論に関わるものと、各論的な個別の疾患に関わるものとに大別される。

総論的なものとして、『医学教程5書』(1611)は5部構成の体系的な医学理論の教科書である。『自然科学要略』(1618)は原子論とアリストテレスに基づいた自然学で、医学理論の哲学的な基礎となるものである。『化学についてアリストテレスとガレノスの一致と不一致』(1619)では、パラケルスス派の医化学への関心を示している。

各論的なものとして、『熱病について4書』